



園だより 2月

令和5年2月号
キッドワールドサード保育園
園長 遠藤 靖子

「雪が降ってるよ」と声をかけると、目をキラキラさせて外を眺める子どもたち。窓に手を当て、その冷たさも忘れたかのように空を見上げています。そんな子どもたちの笑顔を見ていると「寒い」とばかり言ってられませんね。今月も元気に楽しく過ごしていきたいと思います。

25日には「発表会ごっこ」を行う予定にしています。この1年間でできるようになったこと、園で子どもたちが毎日行っていることなどを、保護者の皆様に見てもらえればと思います。楽しみにしてくださいね。詳細につきましては、後日別紙で配付いたします。



行事予定

3日(金)	豆まきごっこ
10日(木)	身体計測
16日(木)	健康診断
25日(土)	発表会ごっこ
27日(月)	お弁当日



お弁当日は

27日(月)です。

お弁当と食具を持たせてください。
飲み物・おやつは園で準備します。



お知らせ&お願い

大分県でもインフルエンザ（**流行性感冒**）の流行期に入りました。引き続き、お子様の健康観察カードの記入をお願いいたします。また、ご家族に発熱者等体調不良者がいる場合、テラスでお子様の受け渡しを行いますので、連絡をお願いいたします。

- 園へ連絡を入れる際は、必ず固定電話の方へお願いいたします。携帯電話の方へ折り返し連絡をいただくことがございますが、保育中は気づきにくく、応答できない場合がございます。ご家庭内で、再度確認していただきますようお願いいたします。

園固定電話：097-554-8500

保育エピソード「はじめての雪体験」

雪が降り、次第に駐車場が白く染まっていく様子を保育士と一緒に部屋から見ていた0歳児のAちゃん。用事で外に出た保育士が、雪を丸めて持ってきてくれ、「冷たいねえ。」「雪だよ～」と声をかけながら、人差し指でちょんちょんと触ってみました。風も吹いていたため、テラスにその雪を置いて部屋の中へ。しかしAちゃんは、その雪の塊が気になるのか、触りたいと窓の方を指さしてアピールします。そこでもう一度テラスから塊をもって入りAちゃんに手渡すと、今度は掌でむぎゅっつつかみました。その瞬間「!!!」と言う感じで目を見開いて、雪の塊を持っていた保育士の手ごと外にどんっ！と押しやり、慌てて部屋の中へ逃げていきました。予想していなかった冷たさに、驚いたのでしょうか。その表情がとても可愛くて、カメラを持っていなかったのがなんとも悔やまれる一場面なのでした。



自尊心をそだてるためのしつけのあり方

キッドワールド総合園長 牧野 桂一

いろいろな場でのマナーや礼儀作法など、子どもためにも必要な「しつけ」があります。小さなうちに身につけてほしいものが理解できなかつたり、身につかなかつたりすると、周りの大人はイライラしてしまうことがあるかもしれません。そこで、イライラしたり大きな声で叱つたりしないですむ、しつけのコツをご紹介します。いことにします。

「～しなさい」ではなく「～しようね」と呼びかける

幼い子どもにとっては、社会のルールは未知なものですから、子どもたちは周りの大人の真似をしながら、少しずつ社会の決まりやルールを身につけていきます。そのような未知な状態の子どもたちが、決まりやルールを身につけるためには、周りの大人の様々な工夫や配慮が大切になります。

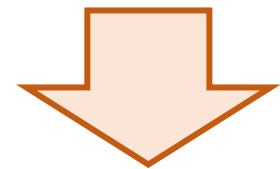
そこで、まず心がけたいのは、子どもたちに対して「～しなさい」ではなく「～しようね。」というように語尾を変えてみることです。「やってはいけないこと」を言うのではなく、「やってほしいこと」を伝えるのです。それだけでも、子どもたちに変化が起ってきます。ポイントは「具体的にやってほしい行動内容」を伝えるということです。子どもは、具体的にイメージができないとうまく行動に移すことができません。例えば、「汚れた手でおにぎりを食べないでね」と大人が言っても、なぜだめなのかが、子どもにはわからないのです。「汚れた手でおにぎりを持って食べるとバイキン（バイキンマン）も一緒に口の中に入ってしまうから、おなか痛くならないように、きれいな手で食べようね」と言うだけで具体的なイメージが湧きやすくなるのです。

このように、なぜそうすることが良いことなのか、ということ具体的に伝えれば、子どもが納得して行動に移しやすくなります。

どのような状況でも、大人がいきなり「～しなさい」と命令口調で言うと子どもは戸惑ってしまいます。中には、反抗的になる子どもも出てきます。大人でもいきなり頭ごなしに「～しなさい」と言われるとイヤな気分になるのは、子どもと同じです。

何かを身につけさせようとするときには、なぜそれを身につけなければならないかという理由をきちんと納得できるように説明し、「～しようね。」と子どもに提案することが大切です。そうすることで、「大切なことを自分は頑張った」という自主性が育つとともに、「大切なことがきちんとできるようになった」というように自尊心も育ってきます。

子どもにしつけをするときに必要となる配慮としては、「否定しない」「強制しない」「丁寧に子どもと向き合う」ということが大切です。子どもがしていることに対して、ついイライラして「～したらだめ。」「～しなさい。」と指示、命令してしまうことがあるかもしれませんが、子どもは自分がしていることを否定されたり強制されたりすると嫌な気分になり、まわりの大人の言うことが素直に聞けなくなってしまうのです。



否定や強制から受容と共感へ

一般的な子どものしつけでは、「やらなかったことを叱る」のではなく「できたことを褒める」ことが大切です。しつけをする際についてやってしまうことは、「やらなかったことを叱る」ということです。しかし、叱るとそのときは従うのですが、言われてイヤイヤするようになってしまったことは、なかなか子どもに身につくものではありません。



一方、褒めると子どもはそのことが好きになり、自分から進んで動くようになります。褒めるときのポイントは「えらいね」や「すごいね」だけではなく、「おかげでお母さん助かったわ」や「きれいにお片づけできて気持ちがいいわね」などの言葉を付け加えることです。そうすると子どもは、自分のしたことに対して自己有用感を持つことができるようになります。

大きな声ではなくできるだけ落ち着いた声で呼びかける

子どもがうまくできないときなどに、つい大きな声で叱ってしまうということがありますが、そんなときほど、できるだけ落ち着いた声で話しかけることが、しつけをする際には大切になります。少し低い声で、しっかりと目を見て話すようにすれば、子どもに気持ちが伝わりやすくなるのです。子どもの目線までしゃがんで話すと、子どもに対する威圧感も軽減できます。また、スーパーやデパートなど大勢の人がいる場所では、子どもの自尊心を傷つけないように大声で子どもを叱ったりすることがないように気をつけます。

一方、子どもは、周りの大人たちの行動をよく観察していますので、大人が決まりや約束、礼儀作法の見本となるような振る舞いをするように心がけるのも子どもがしつけを身に付けていくためには大切なこととなります。

説明することがもう少し残っていますので、今回は引き続きさまざまなしつけの場面での配慮事項について考えていきたいと思います。

「褒める」と「褒められる」と。どちらも私たち人間にとって、とてもよい影響を与えるのだということが分かります。言葉を掛ける、注意する側も「言ってスッキリ」というよりも言った後で言葉の選び方が適切だったかどうか、など悩むことも大いにありますね。そう考えると、子どもも大人も「言われるのが嫌だから」という理由で行動を見直すよりも「褒められたい」という思いでの行動の方が力が湧きますし、声をかける方も嫌な言葉を発するよりも何倍も気持ちが良いはずで、「自分が掛けてもらって嬉しい言葉」「心地よい言葉」「相手にとって分かりやすい言葉」を選ぶ、その大切さは言葉を獲得する時期から、大人になってもずっと続いていくものだと思います。

毎日1回は、誰かを褒めてみましょう！

何か良い変化が起こるかもしれません！

